
黄昏の街

滾

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黄昏の街

【Zコード】

N8261A

【作者名】

滾

【あらすじ】

“僕”的住む街にある噂、黄昏の街。“僕”はメールを見ながら、何を思うか。

僕の町にはある噂がある。

それは“黄昏の街”、という話。

僕の町に住んでいる人は大概この話を知っていて、嫌っている。
だから僕は、その話を学校で皆に話したんだ。

僕の携帯にメールが来た。

From 「タケシ

題 「迷った」

本文 …やばい、迷った。ここどこか解らないかな？交番がある
んだけれど、これからビビりせりつて行けばお前の家に着く？

From 「タケシ

題 「交番はもういい

本文 …いや、そっちの交番じゃなくて、南のほう。ってかもう
いいや。なんか一本道に出たから、そっちを突っ走つてみる。

From 「シンヤ

題 「おー、ここまでこだ

本文 …ここは信じあああああー今自分がどこにいるのかワカ
ラネH！

From 「シンヤ

題 「やっぱー

本文 …マジで迷った。写真添付して送るから、教えてくれ。

From 「アツシ

題

題 「迷子だ」

本文 「お前の家に行こうとしたら迷つたぞ。」

From 「タケシ」

題 「いま六時だよな?」

本文 「おい・・・、おかしいよ・・・。今六時過ぎてるのに、何でこんなに明るいんだ?絶対おかしいだろ?」

From 「シンヤ」

題 「このやうつー。」

本文 「あ?解らないじゃ困るんだよ。どうするよ?もう三時回つてゐぞ?早く行かないとお前の家に行くの遅くなるんだけど。」

From 「カズヤ」

題 「待つとけ」

本文 「お前の家つてどこだっけ?今駅出たから、あと三十分くらいで着くわ。てか十二時回つたから、適当に飯食つてから行く。」

From 「タケシ」

題 「おかしい」

本文 「ここ、おかしいって。何にもない。誰も居ない。しかも、なんで太陽が出てるんだ?もう七時回つてるのに・・・。」

From 「カズヤ」

題 「そろそろ」

本文 「交番が見えてきた。南のほうの。みんなそろそろだと思つから、ゲーム用意して待つとけよ。」

From 「アツシ」

題 「やべえ」

本文 …なんか交番が見えるんだが、こんな所に一本道あつたっけ？南の交番こいつらなんだけど、どうしに行けばいい？一本道？どれとも大通り？

From 「サトウ」

題 「急に何？」

本文 …急に何よ？今日はべつすり眠る予定だつたのに…まだ九時だよ！？今駅前だから、待つてなさい。

From 「カズヤ」

題 「交番」

本文 …交番の横に道あつたけど、あつちじやないよな？

From 「シンヤ」

題 「どー?」

本文 …お前の家が見つからない。てか日が傾いてきた。俺もう帰るわ。もう四時過ぎてるし、やることないだろ。

From 「カズヤ」

題 「勘弁して」

本文 …なんだよ、あつちかよ。一本道、あんな所にあつたっけ？

From 「アツシ」

題 「お前なあ」

本文 …お前に言われたとおりに一本道の方行つたら、なんかワケ解らん道に出たぞ？てか今日日が沈むの早くないか？まだ三時なのに、もう夕暮れみたいになつてんじやん。あれか？
異常気象つてやつか？

From 「サトウ」

題 「疲れた・・・」

本文 「何でこそこなに田舎なの・・・? 煙ぱつかりで家が見つからないじよう・・・。わざわざ交番の隣過ぎたけど、あっちの一本道だけつけ? せうだつたら引き返せなきゃだけだ・・・。」

From 「シンヤ」

題 「「こながい? 私は誰?」

本文 「やばい。お前の家から引き返せつとしたの? 全くどこに居るのか解らない。やっぱりわざ、一本道と追つたのがまずかったか? こながいなかつたか? やべえな、この勢い

「 だともひ暗くなるんじやね? 」

From 「カズヤ」

題 「解らない」

本文 「なあ、どんどん進んでつても何がなんだか・・・。ホントにひづけであつてるのか? ずっと真っ直ぐの道で、周り田んぼなんだけど、家すらないだ」

From 「タケシ」

題 「」

本文 「もうだめだ折れどこを走つてるかわからないなんでもみちがこんなにつづいてるんだよおかしいよだめだおれもうつかれ

From 「サトウ」

題 「怖い」

本文 「言われたとおり一本道通りたけだ、何もないよ? もつと先? なんか急に日が暮れてきちゃつたよ? おかしいよ・・・。今まで十一時前なの? ・・・。怖いから迎えに来てよ

・。

お

From 「アツシ」

題 「なんか」

本文 …おい、お前マジでさつきの道であつてたのか？何も無いぞ？

From 「カズヤ」

題 「何だここ？」

本文 …なあ、さつきから気になつてたんだけど、さつき夕暮れみたいになつたと思ってから、全く日が沈まないんだ。なあ、これこの前お前が話してたのと同じだよな？

From 「シンヤ」

題 「何か全然暗くならないな」

本文 …マジで以上強化？さつき日が暮れてから、全然日が落ちないぞ。てか、全然元の道に戻れねえ。

From 「アツシ」

題 「」

本文 …マジで変なことになつた。自転車漕いでも漕いでも前に進まねえ。お前まさか騙しやが

From 「サトミ」

題 「」

本文 …助けに来て！本当に！怖い！前に進めてるのかもう解らない！何かに飲み込まれるみたいなんか

From 「シンヤ」

題 「」

本文 …何にもない。ここれはビコだ？まさか本当にあの話を聞

いたからか？もうだめだ。お前俺を実験につか

F·r·o·m 「カズヤ」

題 「 」

本文 : そだじやねえよーお前俺を試しに使いやがったな！？
テメエマジふざけん

ここで彼等からのメールは全て途絶えた。

現在一時過ぎ。彼等は、全員“黄昏”の中に消えたようだ。

黄昏の街。

それは僕の住む街に昔から伝わる噂であり伝説。

親はそれを子に伝えないよう勧め、子は知れば田を瞑り耳を塞ぎ、身を丸めて体を振るわせる。

黄昏の街。

ある一本道。

それを、通り抜けた先。

それに、黄昏の街がある。

そこは常に黄昏に包まれていて、淡い光が溢れている。

その光は街に入った者を外に出さず、入ったものは一度と外に出がらない。

そして、

この噂を聞くと黄昏の街に足を踏み入れることになる、との事。

お分かりの通り、僕は全員にこの話をした。勿論、『この噂を聞くと』の下りは教えずに。

解つたことは、やはり誰も帰つてこない、といつこと。

それから、なぜかそれぞれの時間がずれている、といつこと。

その理由は解らない。『レからもつと調べる必要がありそうだ。

黄昏の街への入り口は、普段無い交番の隣の一本道。が、コレが常にそうであるとは限らない。

彼等を僕の家に遊びに誘う、という口実で呼び寄せた。

勿論、他に人が来るとは伝えなかつた。だからおそらく、彼等は僕と一人で遊ぶことを予想していたのだろう。

説明する必要は無かつた。

“黄昏の街”に皆吸い寄せられると確信していたから。その確信には理由があつた。

前に、僕の妹が

そんな事はどうでもいいか。

ともかく、そういうことだつた。

ただ、一つ。

ただ、

クラスメイト数人が一氣に行方不明になつて、それも全員が僕の家に来る途中だと知れた場合、

僕が怪しまれるのかなあ、と、

少し、

そのことに少しだけ、

後悔した。

(後書き)

「ピーハロの話」同様、作者自身書いてよく解らなくなりました。
もっと詳しいヤツを暇があつたら書こうかと思います。
なんにせよ、楽しんで頂ければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8261a/>

黄昏の街

2010年11月5日07時34分発行